

I T活用音楽科学習指導案

作成者 教育センター指導主事

1. 校 種 中学校

2. 対象生徒 第1学年

3. 教科等 音楽科

4. 題材名 情景を想像して聴こう

5. 題材の指導計画 (総時数2時間)

第1時 教材を鑑賞し、旋律の雰囲気やそれを生かした歌い方、伴奏などの表現の工夫を味わわせる。

詩を朗読し、物語のあらすじを理解して曲を鑑賞させる。

(1時間) ・ ・ 本時

第2時 詩と音楽が一体となった表現の素晴らしさを味わわせる。

シューベルトの音楽や歌曲について親しませる。(1時間)

6. 本時の学習

(1) 題 目 教材曲の鑑賞 「情景を想像して聴こう」

(2) ねらい

曲に関心をもち、意欲をもって鑑賞することができる。

【音楽への関心・意欲・態度】

歌詞の内容を理解し、それを生かした表現の工夫を感じ取ってイメージをふくらませて聴くことができる。

【音楽的な感受や表現の工夫】

(3) I T教材を使う意図

本時では教材曲をまず鑑賞したあと、グループ内で役割分担をして、生徒1人1人が物語の役になりきって朗読する。その活動を通して、物語のあらすじをより理解し、それが歌い方や伴奏の変化など音楽表現の工夫にどう結びついているのかを感じ取らせたい。

教科書に書かれた詩は、ドイツ語を文語調に訳したもので、また音符に合わせるためひらがなで書かれており、生徒がそのまま読むと内容が多少理解しづらい。過去に実践した授業では、生徒に詩を読ませて区切りごとに教師が説明しながら内容を伝えていた。

この指導案では、詩と意味とをより生徒が理解できるように、パワーポイントによりあらすじを説明する。画面の左には教科書そのままの歌詞を、右には意識を見せることで、場面ごとの内容や登場人物の気持ちをより明確に理解できるようにし、さらに鑑賞のポイントなども伝えることができるのではないかと考える。

(4) 使用ソフト Microsoft 社 PowerPoint2000


(5) 展 開

欄	学習過程	生徒の学習活動	教師の指導・支援	評価規準
15分 導入	1 CD による鑑賞 LD による鑑賞	○CDを聴き、音楽の雰囲気を感じ取る ○LDを視聴し、音楽の雰囲気や歌手の歌い方、表情などについて感想を話し合う	・教科書は見ないように指示する ・曲想や歌手の表情の変化についての感想を自由に発言させる ・曲のどの部分でどんな感想を持ったのかを確認する	【音楽への関心・意欲・態度】 曲に関心を持って鑑賞したり発言している (観察・ワークシート・発言)
33分 展開	2 曲の概要を知り、あらすじを確認する 3 CD による鑑賞 4 詩の朗読 5 CD による鑑賞	○曲名を知る ○登場人物と、演奏形態を確認する ○詩を読み、あらすじを知る ○詩の内容を思い浮かべて、鑑賞する ○役割分担をして、詩を読む ○4人の登場人物の表現の違い(歌詞と関わらせた声色、旋律、強弱、伴奏の違い)を感じ取り、ワークシートに記入する	・「魔王」のイメージをつかませる ・一人の歌い手が4人の登場人物を歌い分けていることを知らせる <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 歌詞を読む ・ 語り手、父、子、魔王の言葉ごとに意味を説明する ・ 詩の内容を理解させる </div> ・詩と音楽との結びつきを感じ取って聴かせる ・4人1組になり、役を決めて朗読する(グループ活動) ・机間指導をして、雰囲気を生かした読み方ができるようにする ・登場人物の表現の違いについて気づいたことや感じたことをワークシートに記入させる。 ・机間指導をして、記入しにくそうな生徒や観点が偏っている生徒には、書きやすい観点を与えたり、他の観点からも考えるように助言する。	【音楽的な感受や表現の工夫】 詩の場面と関わらせた曲想の変化、声と伴奏の表現方法の工夫を感じ取っている(観察・ワークシート)
2分 まとめ	6 次時の学習について知る	○4人の表現や伴奏の違いについて、ワークシートをもとに学習を深めることを知る		

: IT教材活用場面

(6) IT 教材の説明

語り手 **魔王のあらすじを理解しよう**




かぜのよに	風の夜に
うまをかり	馬を急がせて走っていく
かけりゆくものあり	人がいる
うでにわらべおびゆるを	その人はおびえている
しっかとばかりいだけり	子どもをしっかりと腕に抱いている

① について

初めに、画面左に詩が表れる。授業では生徒にまずその詩を読ませる。次に画面右に詩の意味が表れるので、教師がそれを読み生徒が詩の内容を理解できるようにする。

父



ぼうや	坊や
なぜかお	どうして顔を
かくすか	隠しているのか？

② について

登場人物ごとに、画面左には詩、右に意味が表れるようにする。一通りあらすじを理解したあとで、グループに分かれて役を決め、詩を読みあうので、そのときに意味を考えて表現できるようにする。

父

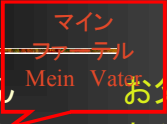
ぼうや	坊や
それはさぎり	それは霧だよ
じゃ	

(魔王ではないよ)

③ について

②と同様。ひらがなだけの詩では、内容がつかみにくいのが、漢字が入ることで意味がわかりやすい。また、教師からの説明も加えておくと、生徒は登場人物の気持ちを理解しやすくなる。

子



おとうさん	お父さん、
おとうさん	お父さんどうして
きこえないの	聞こえないの？
まおうがなにか	魔王が僕に何か
いうよ	言っているよ

④ について

①②と同様。あとで鑑賞する際に聴き取ってほしい歌詞の一部を表示しておく。この言葉を歌でどのように表現しているのか、またその歌い方の変化を鑑賞する際に聴き取らせたい。

魔王 ぼうや、私と一緒に
おいで。

ぼうやいっしょに
おいでよ
よいはとうに
できている
むすめとおどって
おあそびよ
いいところじゃよ
さあおいで

用意はもうできたよ。
私の娘と踊って
遊んだらいいよ。
こっちはいい所だから、
さあおいでよ。

さらに誘惑

⑤について

魔王が言葉巧みに子どもを誘っている場面。猫なで声を出したり、メロディや伴奏の特徴を聴き取らせるために、「誘惑している」ような言葉に注目させる。

魔王

かわいやいいこ
じゃのうぼうや
じたばたしても
さらってくぞ

かわいい良い子
だねえ、ぼうや。
じたばたしても
さらってくぞ

ここで本性を表した

⑥について

魔王の歌い方が急に変わる場面。言葉にその変化が表れているので、鑑賞する際に注意して聴き取らせたい。

語り手 物語の結末は...

ちがって

**死んでしまった
(魔王に魂をとられた...)**

か

こはすし

その子はすでに

⑦について

物語の結末。画面では意味を途中まで表しておき、最後に「子どもが死んでしまった」というテロップが下からゆっくり上がるようにして、物語の雰囲気に合わせて表現した。

曲想を味わって鑑賞しよう

音楽の雰囲気や歌い方の違いを感じ取って聴こう

それぞれの場面を音楽でどのように表現しているのだろう

⑧について

スライドの最後に、今から行う学習のめあてを表示する。授業の初めに鑑賞したときとは違う視点で鑑賞することを知らせる。

